

介護老人保健施設ライフサポートねりま

症例概要 利用者:80代後半 性別:女性 介護度:要介護4

病名: 結核後廃用症候群

利用サービス:入所

経過:肺結核の疑いにて入院。内服治療にて排菌3回陰性確認。一般病棟へ転棟。リハビリ目的にて当施設入所となる。

内 容

入所当初、ADL全介助レベル、移動は車イス介助、立ち上がり困難。環境の変化もあり、幻視様の行動が見られる。声掛けにも表情はなく、リハビリにも意欲が見られなかった。食欲もなく、体重減少、るい瘦著明。食事にエンジョイゼリーを付加し、体重増加を目的とした。

利用者さんの、精神機能の安定を図り、リハビリ、レクリエーションを通して、日中の離床時間を確保し、生活リズムを整えていった。

利用者さんの思いを理解しようと、担当スタッフが根気よくコミュニケーションを図った。そのような関わり合いのなか、徐々に精神機能が安定し、笑顔も見られるようになり、身体機能が向上した。

一番の目的である食事に対する意欲が高まり、自身で食事を10割摂取することができるようになっていった。食事をする場面でも笑顔が見られ、食に対する意欲が上がり、体重も増加し、体力向上に繋がった。車イス全介助レベルから、掴まり立ち、介助歩行レベルまでになった。

老健退所後は、特養へ入所することが決まっており、ご家族の希望通り、食事を食べることができ、ADLも向上し、精神的にも安定した状態で、グループ内であるケアポート板橋への入所へ繋げることができた。

ご家族からは、車イスの生活から歩く姿を見ることができ、当老健におけるチームリハビリテーションケアの素晴らしさに感動して頂きました。一番嬉しかったのは、母のこんな笑顔を見ることができ、意欲を引き出してくれたこのスタッフの方たちの関わりに感謝しているとの言葉を頂くことができたことです。

チームで日々関わる中で、ご本人らしさを引き出すことができるようになった事例。